

第 7 回杉並区清掃審議会 記録

日 時	平成 13 年 10 月 30 日（火） 午前 10 時 00 分から午後 0 時 10 分	
場 所	杉並区役所西棟 6 階 第 5 ・ 第 6 会議室	
出 席 者	委 員	藤井会長、前田職務代理、大石委員、小澤委員、柏原委員、内藤委員、 松原委員、本橋委員、小川委員、くれまつ委員、とかしき委員 (11 名)
	区 側	環境清掃部長、清掃管理課長、リサイクル清掃課長、西清掃事務所長、 東清掃事務所長、清掃事業所長
事 務 局	清掃管理課清掃計画係長、清掃計画係主査、清掃計画係主事	
傍 聴 者 数	1 名	
資 料	当 日 配 布	平成 14 年度可燃ごみ夜間収集モデル事業及びカラス対策の概要 すぎなみ環境目的税 杉並中継所搬入ごみ組成調査について 廃プラスチック分別収集モデル地区調査事業の実施状況について 「杉並ごみ会議」の集約と提言 杉並区清掃審議会 今後の審議に向けた検討用資料
議 題	<p>(1) 報告事項</p> <p style="padding-left: 40px;">平成 14 年度可燃ごみ夜間収集モデル事業及びカラス対策の概要について</p> <p style="padding-left: 40px;">すぎなみ環境目的税について</p> <p style="padding-left: 40px;">杉並中継所搬入ごみ組成調査について</p> <p style="padding-left: 40px;">廃プラスチック分別収集モデル地区調査事業の実施状況について</p> <p style="padding-left: 40px;">「杉並ごみ会議」の集約と提言について</p> <p>(2) 審議事項</p> <p style="padding-left: 40px;">杉並区一般廃棄物処理基本計画の見直しについて</p>	
発 言 要 旨	別紙のとおり	

第 7 回 杉並区清掃審議会 発言要旨

発 言 者	発 言 内 容
会 長	開会する。 (午前 10 時) 去る 10 月 12 日に区長に対して中間答申を引き渡し、今後は最終答申に向けて審議していく。 本日の資料を説明願う。
清掃管理課長	資料確認 資料に基づき、平成 14 年度可燃ごみ夜間収集モデル事業及びカラス対策の概要について報告する。この事業は、結果を見たうえで作業計画に取り入れ、15 年度以降実施していく。
委 員	実施効果をどのように図るのか。例えば 5 段階評価を行うなど、数値化しなければ客観的にわからない。今回の対策にかかるコストも同様である。
清掃管理課長	実施前と実施後の目視も含めて効果測定の方法について細かく検討する。
委 員	日中の作業の場合と比較してコストがどれだけ異なるのか、直営車で収集するのか、雇上車で行うのか。
清掃管理課長	について、正規職員を増やす予定はない。1 日のごみの絶対量は一定程度決まっているので、昼の作業員を夜にシフトすることで対応する。ただし 14 年度の作業計画は既に決まっているので、来年度の昼作業分についてはアルバイト等により対応する。について、現時点では雇上会社を考えている。
委 員	全体の人数が同じであっても昼夜では法律上給与体系が異なるので、全体としてはコストがかかると考えてよいか。
清掃管理課長	実施しない場合と比較するとコストはかかるが、それによって新たなサービスを提供することが出来ると考えている。
委 員	ごみの排出は区民の生活習慣に最も関わるので、収集袋で今後も収集していくのか、工場に見合った容器や袋に変えていくのかについて、集積所のあり方、収集のあり方を含めて検討する必要がある。
環境清掃部長	集合住宅のなかにはごみの排出に問題があるところもあると認識している。集合住宅対

		策も含め、いくつかの対策を組み合わせる総合的に展開していく。
委 員		カラスネットの貸与にあたり、現状では清掃事務所まで出向かなければならない。手間のかからないよう改善していただきたい。
清掃管理課長		なるべく多くの区民に使ってもらえる方法を検討したい。
会 長		今回の事業について、費用が高くなるとしても、それに見合った効果が得られるかを検証できる仕組みが必要である。結果について報告を待ちたい。
清掃管理課長		資料に基づき、すぎなみ環境目的税について報告する。11月に条例を議会に提出する。レジ袋に関して、区ではこのほかにマイバッグ持参運動を行っている。
委 員		住民に十分理解されているかどうか焦点になる。マイバッグを推進してから税について議論すべきであるという意見も多い。
委 員		レジ袋については排出量が把握されているが、一方で収集のための袋はどの程度排出されているのか。レジ袋が収集袋として利用されているならば、その数値を把握する必要がある。なぜレジ袋が埋立処分場や焼却工場に流れてくるのか、収集のあり方の基本から考えるべきではないか。
会 長		事業者側のハンドリングチャージがどれくらいなのか。行政の徴税費用もかなりかかる。区民がこの経済的手法に慣れるのかどうか、どう行動するのか興味がある。欧州で前例のある課徴金制度と比べていい。
委 員		ペットボトルの場合と同様に、レジ袋を回収することはできないか。回収が先行すべきであって、それでも効果がなければ課金で対応すれば良い。
清掃管理課長		すぎなみ中継所搬入ごみ組成調査について報告する。杉並区の一地域で実施している廃プラスチックモデル分別収集とあわせて行う。
会 長		地域、日数ともに少なく、サンプル上有効といえるかどうか疑問である。同一地域を反復的に調査しなければ、継続性の点で意味がない。結果報告を待ちたい。
リサイクル清掃課長		廃プラスチック分別収集モデル地区調査事業の実施状況について報告する。事前アンケートの回収率については後日お伝えする。
委 員		実際にモデル収集を実施している地区では、事前説明がわかりにくかったという声が多かった。住民に対する説明はどのように行ったのか。

東清掃事務所長	まず6月にチラシを作成し、各町会に声を掛けた。あわせて収集品目や容器包装リサイクル法の概要も作成し、各戸に配布した。次いで専用袋を各戸に配布する際に再度説明をした。不在であった区民向けの説明会も開催した。区民が判断に迷って排出したものについては、原則として収集し、モデル回収処理業者のもとで再度分別している。ただし、外観上明らかにモデル収集品目以外のものが混入している場合は収集せず、その割合は全体の5%程度にあたる。
西清掃事務所長	東清掃事務所と同様であるが、7月中に町会役員会で説明した。アンケート配布時に再度戸別に説明し、後日専用袋手渡し時にアンケートを回収した。
委員	容器包装リサイクル法自体問題があるといわれている。杉並区は容器包装リサイクル法をどう解釈し、取り組んでいこうとしているのかが見えない。
リサイクル清掃課長	容器包装リサイクル法について、区としてまず問題なのは中間処理施設が必要とされている点である。また、リサイクル費用に見合う納得が得られるのか、区民から分別の協力がどの程度得られるのかといった問題があり、今回のモデル収集で検証したいと考える。
委員	今回どの品目をどの程度まで分別するのかについて区の考え方と区民の認識との間に差があるのではないかと。
リサイクル清掃課長	作成したチラシには、イラストで個別に品目を載せており、専用袋にも掲載している。
委員	法による「包装」の定義が市民感覚に合わない等の意見を参考にしつつ、区は住民や事業者に協力を呼びかけ、社会的にも意義のあるモデル収集にするべきである。
委員	今回の処理施設で把握した処理状況に関するデータを提示していただきたい。
委員	処理残渣は処理施設で処理されるのか、区へ戻されるのか。
環境清掃部長	約10%は杉並区へ戻されている。資源化される90%のうち54%については、プレート化しており、将来的には再商品化する方向である。残りの36%は再商品化されており、容器包装リサイクル法の採否を判断する基準となる。コスト及び組成調査とあわせて今後結果を報告する。
会長	最終答申に向けて、今回のモデル収集は非常に重要な意味を持つ。区民の意向を踏まえ、行政サービスのあり方そのものも問われる。今回のモデル収集を区全体に及ぼした場合

<p>委員</p>	<p>の費用の推計が可能であれば提示願う。審議会で十分議論していきたい。</p>
<p>リサイクル清掃課長</p>	<p>実際に排出された状況や処理状況を処理施設で見学したい。</p>
<p>会長</p>	<p>「杉並ごみ会議」の集約と提言について報告する。</p>
<p>委員</p>	<p>ごみ会議の参加者に審議会に出席してもらうことも検討していただきたい。</p>
<p>リサイクル清掃課長</p>	<p>ごみ会議への参加について、どの事業者に対し、どのように周知したのか。</p>
<p>委員</p>	<p>杉並区商店会連合会の名簿をもとに事業者に接触を図ったほか、商工だよりを通じて行った。</p>
<p>委員</p>	<p>参加した一般区民としては、提言に対して事業者や行政から何らかの反応を期待している。要望に対しては可能な範囲で返答をしていくべきである。双方向でのやり取りによって初めて議論も深まる。</p>
<p>清掃管理課長</p>	<p>最終答申に向けた今後の審議会の進め方について提案する。杉並区一般廃棄物処理基本計画の見直しを行うため、原案を事務局で作成し、審議していただくことを考えている。この点についてご意見願う。</p>
<p>委員</p>	<p>ごみ収集システムの問題として収集袋について議論する必要がある。家庭ごみの有料化を検討するにあたって、ごみの捨て方は必ず問題になる。</p>
<p>委員</p>	<p>市民の協力をどのように得ていくかについて、地域の意識啓発に取り組む他自治体の例を参考にしながら、仕組みを含めて議論したい。</p>
<p>委員</p>	<p>モデル収集も含めて、区民が実行可能な形を行政が作っていく必要がある。事業者に対する提案を区が積極的に行うべきであり、区民のみに負担を強いるのは公平でない。</p>
<p>委員</p>	<p>プラスチックの減量をどのようにすすめていくかを議論すべきである。今後議論をすすめていくうえでコストの問題は避けて通れない。データを示してほしい。</p>
<p>会長</p>	<p>計画を見直すうえで区民の視点が最も重要と考えるが、次回提出される原案をもとに審議していく。施設見学は11月9日を予定している。</p> <p>本日の会議を閉じる。 (午後0時10分)</p>